



# と しょかんだより

2020年1月号

【号外】

編集・発行

天童市立図書館

## 地元企業ひとつぼ展示

## コーナーを設置しました！

天童市の企業をもっと知ってもらおうと、天童商工会議所や企業に協力をいただいて、商品や材料・説明パネルなどと一緒に、関連する本を約一坪のスペースに展示しています。

紹介する企業は、「木工」に関して日本で最高峰の技術力を持ち、世界でも活躍する天童市の企業「株式会社天童木工」です。

展示期間は、1月4日(土)から1月31日(金)までですので、この機会にぜひご覧ください。



市立図書館の正面入口を入るとすぐ、一番目立つところに「地元企業ひとつぼ展示」のコーナーがあります。

ご協力いただいた、株式会社天童木工は、誰もが知っている天童市内の企業です。

社名は誰もが知っているけれど、どんなことで知られているのかをもっと伝えたい！

天童市にはこんなすばらしい企業があるんだと、来館後には誰かに話したくなる情報が満載の「ひとつぼ(一坪)」です。

当館の椅子やテーブル、書棚も天童木工製です！



今年で創業80年を迎えた、株式会社天童木工。

歴史は、1940年(昭和15年)に天童町(旧)他10カ村の大工・建具・指物の業者が集まり、天童木工家具建具工業組合を結成したところからはじまります。1947年(昭和22年)には、日本で初めて合板を実用化しました。有名なバタフライスツール(写真→)は、1957年(昭和32年)に第11回ミラノ・トリエンナーレ展で(裏につづく)

金賞を受賞、また、1967年(昭和42年)には、ムライスツールがニューヨーク近代美術館で永久展示品となりました。

天童木工の成形合板(※)は、第一線で活躍するデザイナーや建築家とのコラボレーションによって、数々の名作家具を生み出しています。

そのほか、図書館用家具シリーズも製作していて、当館でみなさんがいつも座っている椅子やソファ、使用しているテーブルや書棚などは天童木工製の家具で、開館からずっと使われ続けています。

公共建築等で使用される特別注文家具から家庭で使われる家具まで、また、大手自動車メーカーの木製部品を手がけるなど、成形合板を通じて、芸術でもあり、同時にすぐれた道具でもある製品を作り出している企業です。

※成形合板とは、単板と呼ばれる1mmほどの薄い木の板を重ねて型に入れ、加圧・加熱して形をつくる技術です。



展示しているものは、成形合板に使用する単板と呼ばれる薄い板や、それを何枚も合わせて圧縮し成形した合板、また奥山清行氏がデザインしたコートハンガーなどで、天童木工よりお貸しいただきました。

関連する本の展示には、天童木工についての本や木工・椅子・デザインなどのほかに、木工職人や椅子が登場する小説なども展示していて、借りることもできます。